

高齢者福祉施設等における 救急手引き



宮古島市消防本部

はじめに

全国的に高齢化が進展する中、本市においても平成28年9月30日時点の65歳以上の高齢者(以下、「高齢者」といいます。)の人口は13,180人と全体の24.4パーセントを占めており、市民のおよそ4人に1人が高齢者という現状です。(宮古島市の総人口は54,004人)

また、それに伴い救急搬送される高齢者の数も増え、平成27年中の救急搬送者数2,879人のうち高齢者は1,452人で、全体の約50%を占めています。

高齢者の救急搬送のうち、介護施設や入所施設といった高齢者福祉施設等(以下、「施設」といいます。)からの要請も増加傾向にあります。

平成27年中、施設からの搬送者数は147件になります。これは高齢者だけの搬送者数の約10%を占めています。(訪問介護等は除く。)

要請内容として、利用者の急病や転倒事故などに起因した救急要請が見受けられます。

施設内での事故防止等を日頃から気をつけていても、急病や事故は起きてしまうものです…

本手引きを活用することにより、事案が発生した際、施設職員は的確な対応を実施し、その内容を救急隊及び搬送先医療機関と共有することにより、円滑かつ効率良い救急搬送を行い、施設利用者の安心・安全を守りたいと考えています。

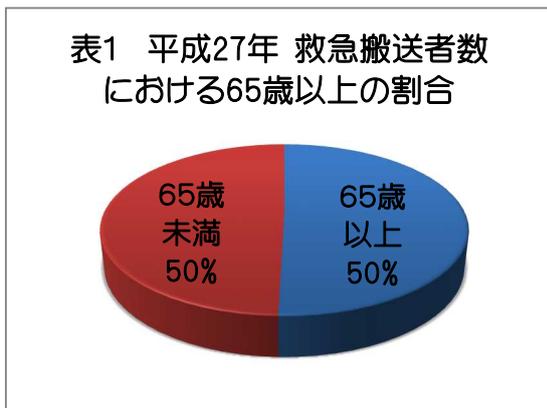
救急の概要

宮古島市管内、平成27年中における救急の概要です。

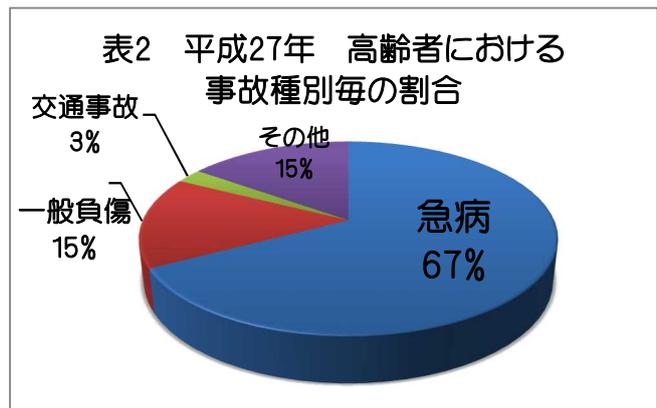
救急搬送者総数 2,879 人のうち、約 50%にあたる 1452 人が高齢者となっています。(表1)

その内訳として、急病が約 67%、一般負傷が約15%で両者を合わせると全体の 8 割以上が高齢者救急搬送の大半を占めています。(表2)

その中には、誤嚥が起因となった誤嚥性肺炎や転倒による大腿骨骨折など入院が必要となるケースが多く見られます。



平成 27年 宮古島市消防本部救急年報より

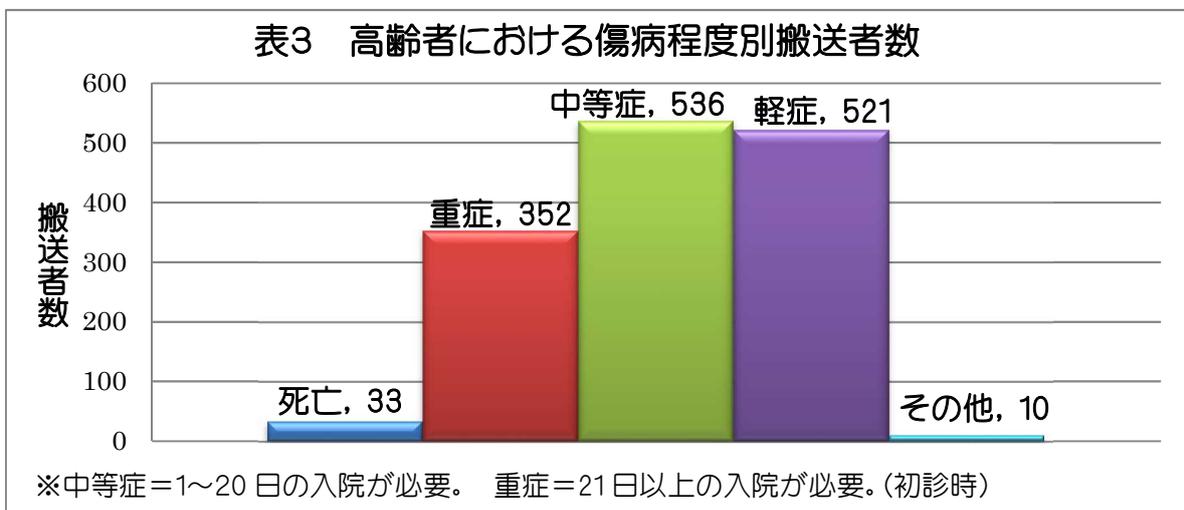


平成 27年 宮古島市消防本部救急年報より

下の表3を見てみましょう。高齢者で中等症以上の搬送者数は 921 人です。この数値は高齢者における搬送者数の6割超えの数値となっています。

宮古島市管内の救急事案において、5 人に3人は入院が必要な傷病者を搬送していることとなり、高齢者自身や家族にも大きな損失であることを表しています。

このような状況を回避し、高齢者が安心安全に生活を営むためには、日常生活における『予防救急』への取り組みが重要になります。



平成 27年 宮古島市消防本部救急年報より

予防救急とは(施設内)

高齢者の救急搬送で多く見受けられる状況として、「様子をみていた」「病院へ行くのは嫌」など、病院への受診が遅れて重症化してしまう場合があります。

また、自宅など普段と変わらない行動をしても転倒し、大腿骨の骨折を起こし救急搬送される場合も多く見受けられます。

では、どのように予防すれば良いのか、いくつかポイントを紹介します。

1. 早めにかかりつけ医や専門医を受診する。

前述のとおり、入院を必要とする中等症以上の搬送者が全体の64%近くを占めています。重症以上に関しては全体の3割以上を占めており、高齢者搬送の重症化が問題視されます。

これらを予防するため、早めにかかりつけ医や近くの専門医を受診するなど、症状が比較的軽いうちに対処することが必要です。

入所者ごとに、かかりつけ医や協力病院との連絡を密にし、容態変化時に相談受診できる体制を整えましょう。

また、症状が悪化する前や夜間・休日などで職員が少なくなる前に早めの対応をお願いします。

2. 転倒・転落防止。

高齢者の方は、普段生活し慣れている場所でも、小さな段差でつまづいてしまい、骨折を伴う大けがになる場合があります。高齢者の骨折は治りづらく、寝たきりの原因になってしまうケースがあります。

施設内の段差、滑りやすいカーペットや床に置かれた新聞紙など、障害物になり得る物はできるだけ無くし、転倒、転落には十分注意しましょう。

3. 誤嚥・窒息の予防

脳疾患や神経疾患の持病がある高齢者の方は、食べ物などを飲み込む機能が低下している場合があります。また誤嚥した場合、肺炎などの重篤な呼吸器疾患を引き起してしまう恐れがあります。食べ物を小さくする工夫や、食事中むせるなどの些細な変化に気づける様に注意することを心がけましょう

4. 熱中症の予防

高齢者の方は温度調節機能が低下し、のどの渇きを感じにくくなっています。また、炎天下の畑や高温の室内で過ごされる方も多く見受けられるため熱中症には十分気をつけなければなりません。

こまめな水分補給、室内の換気、畑作業中の休憩などを心がけましょう。

5. 事案発生時の対応

入所者に最大限の注意を払っていても、緊急事態が起こらないとは限りません。

いざ、事案が発生した際に職員一人一人が、入所者のためにどのような行動がとれるのか、普段からの心構えが大切です。

応急処置を実施する者、119番通報をする者など役割分担を明確にし、安全、確実、迅速な行動を心がけましょう。

他にも、こんな準備があれば…

①AED(自動体外式除細動器)や救急バッグなどを設置し、職員へ周知する。

②救命講習会などを受講し、応急手当の知識と技術を習得する。

施設における救急要請のポイント

施設内で緊急事態が発生した場合、どのような対応をすればよいのか焦ってしまうでしょう。職員数の少ない夜間帯などは特に…

事案発生時に落ち着いて行動することができ、現場対応が円滑に実施できる様に、具体的なポイントを明示します。

1. 施設内での対応

- (1) 緊急事態が発生したことを、施設内職員に知らせてください。
 - (2) 緊急事態が起こった場所に、職員を集めてください。
 - (3) 集まった職員の役割分担を決めてください。
 - ア 119番通報し、救急車を呼んでください。
 - イ 傷病者への応急手当。
 - ウ 関係者への連絡。(家族※1、医師、看護師など)
 - エ 救急車の誘導と、救急隊を傷病者のところへ案内してください。
 - オ 何が起こったのか、どんな処置をしたのか説明してください。
 - カ 『救急連絡シート』(別紙 1)などの傷病者の必要な情報を、救急隊へ伝達してください。
- ※1 家族などの関係者に早期連絡し病院へ向かう様伝えることで、病院到着後の治療が円滑になります。

2. 協力病院への連絡と搬送病院の確保

- (1) 協力病院やかかりつけ医師に連絡してください。
- (2) 搬送先医療機関が確保されている場合は、当該医療機関へ搬送します。
※傷病者の状況により、搬送先医療機関を変更する場合があります。

3. 施設職員の同乗

- (1) 医療機関へ申し送りのため、救急車内で状況聴取をする必要があります。
- (2) 看護記録、介護記録、カルテなどを持参してください。

※どうしても職員の同乗が無理な場合、「救急連絡シート」を確実に記入することで、救急隊員が傷病者情報や発生状況を医療機関へ申し送ることが出来ます。

4. 情報伝達方法の統一

施設—救急隊—医療機関が情報伝達方法を統一することで、円滑な申し送り
が出来ると考えています。

ここでは、日常生活動作(以下、「ADL」といいます。)を伝える際の伝達方法の
簡素化を行いたいと思います。

ADLとは一人の人間が独立して生活するために行う、基本的で毎日繰り返さ
れる一連の身体動作などであり、実際には日常生活で必要とする動作をどれだ
け自力でできるかを判定するための尺度となります。医療や介護の現場では、患
者の治療やリハビリテーションの指標として、また治療効果の判定などに古くか
ら活用されております。

(ADL= activities of daily living の略)

このADLを3つの動作に絞り、動作毎にレベルを3段階に分け、誰もが分かりや
すい指標とすることで、円滑な情報伝達に役立てられればと思います。

項目 \ 程度	介助なし 1	一部介助 2	全介助 3
A:歩く	自力歩行 杖	歩行器 車いす	寝たきり 歩行不可
D:出す(トイレ)	自力可能	ポータブル	寝たきり おむつ
L:ランチ(食事)	自力可能	一部介助 水分摂取可	寝たきり 経管栄養

たとえば、

①75歳男性、普段から自分で杖歩行している入所者様で、トイレもご自身で行え
ます。既往に脳梗塞があり、その後遺症で食事は一部介助となっています。



このような場合、「ADLは、A=1、D=1、L=2です」とお伝えください。
項目の統一化が出来ているので、その情報を救急隊も収容先医療機関へそのま
ま共有することが可能です。

救急連絡シート

作成日： 年 月 日
 作成者： 本人 ・ 家族 ・ 施設職員
 (氏名：)

施設名		住所	宮古島市
		電話番号	

◆傷病者情報

住所			
ふりがな 氏名		性別	男 ・ 女
生年月日	明 ・ 大 昭 ・ 平	年 月 日	年 齡 歳 (H 年 月 日現在)
連絡先 電話番号		介護 区分	

◆医療情報

現在治療中の 病 気		
過去に医師から言われ た病気 (既往症)		
服用している薬		
かかりつけ 又は 協力医療機関	医療機関名	診療科目及び主治医氏名

◆普段の生活 (例：A = 2、D = 2、L = 1)

項目/程度	介助なし (1)	一部介助 (2)	全介助 (3)
A：歩く	自力歩行・杖	歩行器・車いす	寝たきり
D：出す (トイレ)	自力可能	ポータブル	おむつ
L：ランチ (食事)	自力可能	一部介助・水分摂取可	経管栄養など

◆緊急時連絡先

氏名	続柄	連絡先	所在地
			島内 ・ 島外 ()
			島内 ・ 島外 ()

◆特記事項 (救急隊及び病院へ伝えたいこと)

時間がある場合は、裏面に救急要請の状況や現在行った処置などを記録してください。

救急要請の状況

※救急要請時に、時間がある場合は記載してください。

状態が悪く処置を行わなければならない場合は、処置を優先してください。

いつ・・・

【 時 分頃】 ※発生時刻または気づいた時間

○最終健在時刻【 時 分頃】（最後に普段どおりの状況が確認出来た時間。）

どこで・・・

居室内 ベッド上 床 車いす上 トイレ 屋外

浴室 食堂 階段 広場 その他（ ）

何をしているとき・・・

どうなった・・・

直近のバイタルサイン

測定時間： 時 分

意識レベル(JCS)		脈拍数	回 / 分
呼吸回数	回 / 分	SP02	%
血圧	/	体温	℃

現在、実施した処置・薬剤など

※この救急連絡シートは、救急業務以外には使用しません。

※救急搬送終了後に、同乗の施設職員に返却、又は家族、搬送先医療機関へお渡しします

《記入例》

<h1>救急連絡シート</h1>		作成日：2016年9月1日	
		作成者：本人・家族・ 施設職員 (氏名：消防 太郎)	
施設名	宮古島介護事業所 消防園	住所	宮古島市下里1792-6
		電話番号	0980-72-4358

◆傷病者情報

住所	宮古島市上野字新里235-253		
ふりがな 氏名	しょうぼう うえの	性別	男 ・女
	消防 上野		
生年月日	明 ・大 15年9月 昭 ・平 1日	年齢	76歳 (H28年9月1日現在)
連絡先 電話番号	0980-76-2086	介護 区分	

◆医療情報

現在治療中の 病 気	高血圧、認知症		
過去に医師から言わ れた病気（既往症）	脳梗塞		
服用している薬	降圧剤、ワーファリン		
かかりつけ 又は 協力医療機関	医療機関名	診療科目及び主治医氏名	
	県立宮古病院	内科 宮古 太郎 医師	

◆普段の生活（例：A=2、D=2、L=1）

項目／程度	介助なし（1）	一部介助（2）	全介助（3）
A：歩く	自力歩行・杖	歩行器・ 車いす	寝たきり
D：出す（トイレ）	自力可能	ポータブル	おむつ
L：ランチ（食事）	自力可能	自助具・水分摂取可	経管栄養

◆緊急時連絡先

氏名	続柄	連絡先	所在地
消防 宮古	息子	090-2967-□□□□	島内 ・島外（ ）
救急 伊良部	娘	0980-78-△△△△	島内・ 島外 （東京都）

◆特記事項（救急隊及び病院へ伝えたいこと）

右半身に麻痺のある利用者さんです。

普段会話はしっかりと出来ます。

時間がある場合は、裏面に救急要請の状況や現在行った処置などを記録してください。

救急要請の状況

※救急要請時に、時間がある場合は記載してください。

状態が悪く処置を行わなければならない場合は、処置を優先してください。

いつ・・・

【 21 時 30 分頃】 ※発生時刻または気づいた時間

○最終健在時刻【 20 時 00 分頃】(最後に普段どおりの状況が確認出来た時間。)

どこで・・・

居室内 ベッド上 床 車いす上 トイレ 屋外

浴室 食堂 階段 広場 その他 ()

何をしているとき・・・

寝ているとき。(夜の回診中に気づいた・・・)

どうなった・・・

呼びかけに対して反応はなく、意識状態が悪い。サーチも低下してきたので救急要請しました。

直近のバイタルサイン

測定時間： 22 時 15 分

意識レベル (JCS)	II-20	脈拍数	120回 / 分
呼吸回数	16回 / 分	SP02	92%
血圧	182/110	体温	36.5℃

現在、実施した処置・薬剤など

酸素をカニューラで2L投与しています。

いつもより血圧が高いです。

※この救急連絡シートは、救急業務以外には使用しません。

※救急搬送終了後に、同乗の施設職員に返却、又は家族、搬送先医療機関へお渡しします。